

【工夫のポイント】

- 農地耕作条件改善事業を活用し、担い手自ら1年で約15haを整備。
- 経営規模が100haを超え、今後も規模拡大が続くため、コスト縮減や省力化を目指し、乾田直播を導入。
- 基盤整備後の生育ムラ対策として、ドローン空撮画像による生育診断や無人ヘリによる可変施肥を実施し、安定的な収量確保に取り組んだ。

【取組地域の概要】

○位置 かしわし
千葉県柏市

千葉県

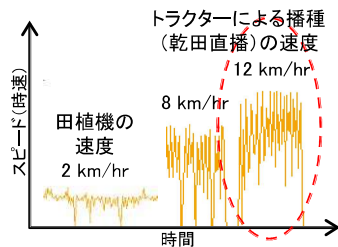


だいにかんたく
第二干拓地区

- 主要作物
・かぶ、長ネギ、ほうれんそう 等
- 主な支援施策
・国営手賀沼干拓土地改良事業(S21～S43)
・県営湛水防除事業(H8～H25)
・ストックマネジメント事業(H23～H28)
・農地耕作条件改善事業(H28～H30)

スマート農業に対応したほ場を整備

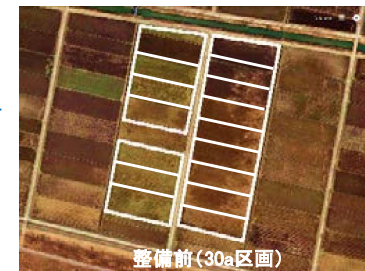
区画拡大と排水性の改善により、乾田直播体系が導入可能となり、作期の分散や省力化に伴う生産性の向上を実現。



基盤整備
(H28年～H30年)

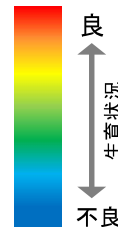
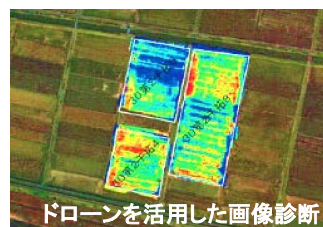
【整備前】

30a区画のほ場であったが、更なる省力化を見据えると、農地は狭小で排水性も悪いため、大型農機や省力化技術の導入に支障。



ICTの活用で基盤整備後の営農を支援

- ドローンを活用し、空撮画像を解析することにより、生育診断を実施。さらに、診断結果に基づき、無人ヘリによる可変施肥を行い、精密農業を展開。



生産現場

先進的技術や支援制度の情報共有

- 本地区の担い手やメーカーが講師となり、補助事業の活用方法や乾田直播の技術導入等について情報提供を実施。



地域の取組

省力化の追及による収益性の向上

- 農地の集約化と乾田直播で作業を大幅に効率化。



- 農地の集約により耕起作業時間は35%削減。
- 乾田直播により稲作労働時間の半分以上を占める育苗と田植の作業時間が約30分の1に削減。

